

研究大会について

～第6回研究大会は延期～

開発調査センター 清水 弘文

沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会では、研究会で検討した結果や各地域での取組事例などを紹介し、成果の現場普及を推進するため研究大会を開催しています。

第1回研究大会は平成23年5月12日に、中央水産研究所講堂で開催されました。第1回は、現在行われているような、テーマを決めて講演とパネルディスカッションを行うという形式ではなく、沿岸域におけるビジネスモデル研究会設立大会として位置づけ、研究会設立の経緯を説明すると共に、京都府の底びき網漁業とMSC認証、茨城県小型底びき網漁業の現状と漁業者の取り組みについての報告の他、タチウオに関する話題が4題報告されました。参加者は61名でした。



第1回研究大会の様子（於；中央水研）

第2回研究大会からは、特定のテーマを定めたシンポジウム形式とし、平成24年7月10日にクイーンズタワーB棟会議室で開催しました。テーマは「みんなで考える魅力ある漁業～小型底びき網漁業を例に～」とし、第1部で講演2題、第2部ではパネ

ルディスカッションを行いました。小型底びき網漁業について、その概要、最新の漁具・漁法、新たな販売方法等について議論しました。参加者は136名でした。



第2回研究大会の様子（於；クイーンズタワー）

第3回研究大会は、平成25年10月30日に東京海洋大学白鷹館で行い、この回から会場は白鷹館が定番となりました。テーマは「漁業現場は魚の価値をいかに高められるか—持続的漁業活動を支える水産物価格の実現に向けて—」として開催しました。第1部で講演2題、第2部ではパネルディスカッションを行い、漁業生産・流通・販売の各段階での価値向上の取り組みを紹介し、価値向上には流通や販売段階で、生産者が魚の価値を良く理解するパートナーを得ることが重要であることを確認しました。参加者は150名でした。



第3回研究大会の様子（於；海洋大白鷹館）

第4回研究大会は、平成26年11月20日に「生鮮水産物流通・販売の現状とその未来—漁師の獲った魚は今どのように最終顧客に届けられているのか?—」をテーマとして開催しました。

第1部で講演5題、第2部ではパネルディスカッションを行い、水産物の価格向上に対する漁業現場の取組の可能性、視点、方策等について論議しました。参加者は182名でした。



第4回研究大会の様子（於；海洋大白鷹館）

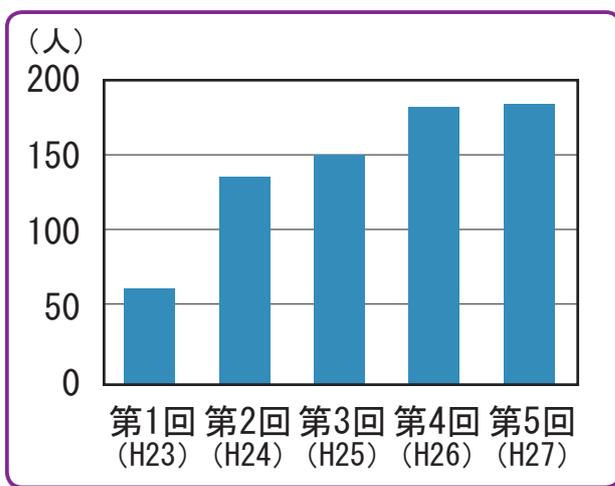
第5回研究大会は、平成27年11月30日に「沿岸漁業のビジネスパートナー—地域のスーパーと沿岸漁業の連携は如何にあるべきか—」をテーマとして開催しました。

第1部で基調講演1題、第2部ではパネルディスカッションを行い、生産者とスーパーが連携して地方漁港で水揚げした魚を地方のスーパーで販売して行こうという内容で議論しました。参加者は184名でした。



第5回研究大会の様子（於；海洋大白鷹館）

第5回研究大会の総括では、これまでの研究大会を通して、都市圏の最終顧客に沿岸魚をどう届けるかという課題が残されているとの提言が有り、ビジネスモデル研究会で協議した結果、第6回の研究大会のテーマとして取り上げることになりました。平成28年11月7日に築地市場の豊洲移転が予定されていたため、移転直後に第6回研究大会を開催し、築地市場の豊洲移転にスポットを当て、この大転換を沿岸漁獲物の販売にどのように活かすかという内容にすることとなりました。しかし、講演をお願いする関係者にあたったところ、移転直後は多忙で対応は無理だとのことで、研究大会は年明けの1月または2月に開催することになりました。ところが、新都知事により、築地移転の延期が決定されたため、第6回の研究大会も延期・再考せざるを得なくなりました。移転の今後のスケジュールは不透明であり、現在のところ、今年度中の開催は難しい状況です。改めて開催のご案内をすることとなりますので、その折には多数のご来場をお願い致します。



研究大会参加者数の推移